

- ①～② 第23回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催
- ひょうご震災記念21世紀研究機構研究成果報告会を開催
- ④ 情報ひろば
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター MiRAi

第23回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催

第23回となるアジア太平洋フォーラム・淡路会議主催の国際シンポジウム・フォーラムが新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3年ぶりに8月5日(金)に淡路夢舞台国際会議場(淡路市)で開催されました。今回は「コロナ危機・ウクライナ危機後の世界と日本」をテーマにオンラインで開催し165人が視聴しました。

井植敏代表理事に続き、兵庫県の片山安孝副知事によるあいさつの後、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰する「アジア太平洋研究賞」の第21回授賞式を実施したほか、授賞式ができなかった第19回、20回の受賞者も紹介し3年間の受賞者が受賞の言葉を述べました。



◎記念講演1

「ウクライナ危機が問いかけていること」

船橋洋一 (公財)国際文化会館グローバル・カウンシル
チェアマン／元朝日新聞社主筆

ロシアがウクライナに侵攻したのは、ソ連崩壊後、黒海に面したウクライナのクリミア半島の権益を巡る両国の地政学的・権力政治的な構造等が背景にあり、海に囲まれた日本でも、中国との国境に同様の重圧があることを忘れてはなりません。専制主義国家である中国とロシアが、安全保障上連携して協商関係を深め、民主主義国家への対立姿勢を強めている今、日本は国家の安全保障や戦略的外交に真剣に取り組まなければなりません。また、米国をはじめとする民主主義国が、ウクライナ戦争を終結させるため、ロシアに対し経済制裁を実行しているものの、ロシアがその状況に想定以上に耐え、戦争が長期化する見込みです。実は経済制裁に参加している国はわずか37カ国で、多くの国が中露に経済制裁され苦しんだ過去を持ち、現在債務危機にあるため、棄権もしくは反対しています。そのような国々とも協調できる新しい外交戦略が必要と強調されま

した。

また日本は第2次世界大戦後、海に囲まれた地理的条件と、大国・米国との同盟という恵まれた国際環境の中で経済発展を実現できました。しかし、米国を中心とした国際秩序は、米国が自国第一主義を強め、中露が連携を深める中で大きく揺らいでいます。日本はもはや米国頼みでは自国を守れない現実、自給率が低く他国からの経済制裁に耐えられない現実を認識し、国際秩序を積極的に構築していく役割を担う必要があり、対外国に加え、気候変動や自然災害へのリスクも含めた「安全保障」を、国の重要政策として推進すべきと指摘されました。

◎記念講演2

「パンデミックと日本の現場・国際社会」

砂川富正 国立感染症研究所実地疫学研究センター長

国立感染症研究所の実地疫学研究センターが養成している実地疫学専門家は、感染症の現場に赴き、起きている事例から対策を分析し、状況が改善するまでの対応をバックアップする者で、新型コロナウイルス感染症対策にお

いて重要な役割を果たしています。日本にはまだまだ少ない実地疫学専門家による日本のコロナ対策の成果と課題をまとめました。

海外では、感染者の強制隔離やロックダウンなど、政府主導の行動抑制が行われ、日本は、規制を要請にとどめながら、クラスターの早期発見や濃厚接触者の特定による感染経路の遮断に努めており、こうした専門家や自治体等の努力により大規模感染は防いでいますが、感染力の強いオミクロン株など、抑制しても新たな変異ウイルスが出現すること、クラスター対策や感染者治療に当たる保健所や医療機関が業務過多で疲弊していることが課題です。海外からウイルスが大量に入ってきた後では、クラスター対策が役に立たないことも分かってきました。

令和2(2020)年にパンデミックを引き起こしたコロナ禍はいまだ収束しませんが、ロックダウンして経済活動や日常生活を止めるのではなく、自己防衛が大切であると指摘されました。また、年齢や基礎疾患に応じて3回以上ワクチンを接種すること、手洗いとうがい、マスクの着用、三密の回避、こまめな換気といった従来の個人でできる対策が、今でも全世界で有効であることを強調され、さらにクラスター対策は、流行の兆しが出てきた時に実施することが有効であり、オン・オフを切り替えて保健所や医療機関が持続的に対応できる体制を築くことも提案されました。

◎記念講演3

「激動の世界とアジア経済の行方」

澤田康幸 東京大学大学院経済学研究科教授／前アジア開発銀行チーフエコノミスト

澤田氏は、アジア経済を、①過去50年の成功の歴史②

コロナ禍とウクライナ危機に直面する現在③ポストコロナのニューノーマルの三部構成で語られました。

まず、アジア経済の成功の要因として①政府主導の開発・経済政策推進②急速な産業構造の高度化③生産能力への投資や人的資本の構築④技術模倣から技術革新への変貌⑤先進国や国際開発金融機関との有効なパートナーシップの形成の5つを紹介されました。

次に、コロナ禍に対し、アジア各国の政府が積極的に財政金融対策を打ち出したため、経済状況は回復傾向にあるものの、ウクライナ戦争の長期化によりエネルギーや農産物の価格が高騰する中、楽観視できない現在を分析されました。

最後に、今後解決すべき課題として①危機・災害に対応できる強靱な社会の構築②デジタル化・技術革新による成長促進③デジタルデバイド等の格差は正や気候変動対策等による持続的成長④高齢化・急速な人口動態変化への対応⑤課題解決資金調達のための民間活用5つを提示されました。

アジア諸国は、戦争や震災など大きな危機をきっかけとして経済成長・構造改革を遂げてきました。現在のコロナ禍やウクライナ危機も、過去50年の成功から学ぶことで乗り越え、新たな潮流を生み出せるとの希望を示して講演を終えられました。

開会あいさつでは、会議発足当初から代表理事を務められた井植敏氏から、代表退任の意向が示されました。国際シンポジウム後、書面開催された総会でご退任が承認され、五百旗頭真・当機構理事長が代表理事に就任することが決まり、今後、新たな体制で淡路会議が運営される予定です。



記念講演1 船橋氏



記念講演2 砂川氏



記念講演3 澤田氏

思いに色を、カタチを与える

写真集・詩集・自費出版の
お問い合わせは

神戸新聞総合印刷
神戸新聞総合出版センター

<https://www.kobenp-printing.co.jp/>

ひょうご震災記念21世紀研究機構研究成果報告会を開催

研究戦略センター研究調査部

9月27日(火)、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度にかけて取り組んだ研究プロジェクト「広域経済圏活性化による経済成長戦略」の研究成果報告会を開催し、104人の方々が参加しました。

同研究では、グローバル化・少子高齢化、東京一極集中下での効果的かつ効率的な地域再編・再生・創生方策にアプローチし、政策提言「イノベーション関西：関西は広域で結束せよ」をまとめました。関西における企業、地方自治体、住民も含めたあらゆるステークホルダーが、よりよい社会を実現するために、仕組みや関わり方を変革(イノベーション)する必要があります。ポストコロナ時代に向けて、今まさに「イノベーション関西」を展開すべき時です。

報告会では研究成果を報告するとともに、2025年大阪・関西万博を契機として、2030年に持続可能な関西を実現するためにわれわれは何を準備すればよいのかについて、活発な議論が交わされました。

◎基調講演「イノベーション関西：関西は広域で結束せよ」

最初に研究会座長である加藤恵正・兵庫県立大学特任教授が研究の趣旨について説明した後、上村敏之・関西学院大学経済学部教授が「イノベーション関西：関西は広域で結束せよ」をテーマに基調講演を行いました。

講演では、日本3大都市圏(東京圏、名古屋圏、大阪圏)の転入超過数の推移や首都圏の企業転入・転出動向等からコロナ・パンデミック後の関西圏の現状を把握した上で、関西圏の社会経済が停滞している背景にイノベーションの欠落があることを指摘しました。関西圏に今求められていることは、あらゆるステークホルダーがより良い社会を実現するために仕組みや関わり方を変革することであり、行政区域の範囲を超えて広域で結束し、広域連携、公民連携、民民連携を活用して「スマート戦略」「空間戦略」「人財戦略」という3つの戦略に取り組み、関西に持続可能で成長する社会を実現していくことであると報告しました。



◎パネルディスカッション

「広域経済圏活性化による経済成長戦略－2025年大阪・関西万博に向けたイノベーション関西構想－」

コーディネーター

加藤 恵正 兵庫県立大学特任教授／(公財)尼崎地域産業活性化機構理事長

パネリスト

澤木 昌典 大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻教授

多田 真規子 西日本旅客鉄道(株)理事 地域まちづくり本部地域共生部長

新川 達郎 同志社大学名誉教授／関西広域連合協議会副会長

水方 秀也 (株)竹中工務店開発計画本部長(西日本担当)

コメンテーター

上村 敏之 関西学院大学経済学部教授

京阪神を中心とする関西広域圏の現状について、政治・行政学、観光、まちづくり、グリーンイノベーションといったさまざまな観点から報告があった後、『なぜ関西は結束しないのか(空間戦略)』『関西の人財養成・確保(人財戦略)』についてディスカッションが繰り広げられ、関西広域全体に波及する政策の立案、府県の境界を越えた連携、地域人材を育成する上でのコミュニケーション、ファシリテーション、コーディネート各能力育成の重要性等について意見が交わされました。

また、2025年大阪・関西万博の開催を関西広域圏の活性化にどのように生かしていくべきかという視点に立ち、「京阪神地域は50km圏内に個性豊かな都市が集積した世界的にも珍しい地域であり、自信を持って世界にアピールを」「環境・経済・社会全てが変わろうとする時代を迎え、万博から先の有りようを提案する場となってほしい」「『多様性の中の統合』に向けて関西を作り直していく絵を思い浮かべながら、取り組みを」といった意見が出されました。

総括では、コーディネーターの加藤教授が、世界経済フォーラム ダボス会議のテーマ“グレートリセット(世界中のあらゆるシステムを見直すこと)”について触れつつ、日本や国内の地域も世界と同じ危機にあり、持続可能な関西を実現するためには小手先の対応で状況を解決したかに見えるようにするのではなく、前例主義にとらわれず根本から変革していくことが重要であると訴え、パネルディスカッションを締めくくりました。

情報ひろば

研究戦略センター

兵庫自治学会研究発表大会のご案内

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、エッセンシャルワークの重要性が再認識され、その労働環境の改善が求められる一方、ICT等の活用によるテレワークやワーケーションなど働き方の多様化が進んでいます。その実態を知るとともにこれからの働き方を考えるため、「ポストコロナ社会の多様な働き方について考える」をテーマに、山田久・日本総合研究所副理事長を講師に迎えて研究発表大会を開催します。



- 日時＝12月17日(土)10時25分～17時(予定)
- 場所＝兵庫県立大学商科キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)
※神戸市営地下鉄「学園都市」駅から徒歩約10分

- 内容＝総会(10時～10時15分)
全体会(10時25分～12時)
分科会(13時30分～17時)
- 申し込み方法＝兵庫自治学会ホームページからお申し込みください。
<https://hapsa.net/announcement.html>

【問い合わせ】

兵庫自治学会事務局(研究戦略センター内)
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
Eメール jichigakkai@dri.ne.jp
<https://hapsa.net/>

21世紀減災社会シンポジウム「関東大震災から100年～教訓を継承し、迫り来る大災害にいかす」のご案内(オンライン)

ひょうご震災記念21世紀研究機構は、戦前戦後を通じて防災報道を重視してきた朝日新聞社と共同で、関係機関と連携しながら「防災・減災」をテーマとしたシンポジウムを開催してきました。

今回は、大正12(1923)年9月に発生した関東大震災から100年となる節目に、迫り来る首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大災害に備え、持続可能な減災社会を構築するための方策等について議論します。

当シンポジウムはオンライン開催とし、YouTubeでライブ配信します。

- 日時＝令和5(2023)年1月20日(金)13時30分～17時
- 会場＝オンライン開催(YouTubeでライブ配信)
- 参加＝無料、事前申し込み(申込者に視聴用URLを送付。視聴可能期間：当日～1月30日(月))
- 主催＝ひょうご震災記念21世紀研究機構、朝日新聞社
- 後援＝内閣府政策統括官(防災担当)、復興庁、総務省消防庁、東京都、兵庫県、関西広域連合
- 内容
 - 基調講演「関東大震災100年に、首都直下地震への対応を考える」(仮)
 - 講師 平田 直(東京大学名誉教授)
 - 令和4(2022)年、東京都防災会議地震部会長として首都直下地震想定見直し。国の地震調査委員会委員長も務める。主な

著書「首都直下地震」(岩波新書)。

- パネルディスカッション「持続可能な『減災社会』を目指して」
コーディネーター 御厨 貴 (機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授)
- パネリスト 鍵屋 一 (跡見学園女子大学教授／元東京都板橋区職員)
- 鎌田 泰子 (神戸大学大学院工学研究科准教授)
- 佐藤 唯行 (一般社団法人フェーズフリー協会代表理事)
- 古城 博隆 (朝日新聞東京本社社会部記者)

○総括「関東大震災から学ぶこと」

- 五百旗頭 真(機構理事長／兵庫県立大学理事長)
- 小林 舞子 (朝日新聞社東京社会部次長)

- 申し込み方法＝令和5(2023)年1月19日(木)までに当機構ホームページからお申し込みください。
<https://www.hemri21.jp/>

【問い合わせ】

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
Eメール gakujutsu@dri.ne.jp

兵庫県こころのケアセンター

令和4年度第2期 こころのケア研修の受講者募集

こころのケアに携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ研修を実施しています。

来年2月に実施する研修の受講者を募集しています。

- 場所等＝兵庫県こころのケアセンターまたはWeb(Zoomで実施)
- 申し込み方法＝受講申込書(※)に必要事項を記入の上、Eメールでお申し込みください。
- 申込者多数の場合は、各申込締め切り日を期限として、初めての受講の方を優先の上、抽選で受講者を決定します。
- ※当センターホームページからダウンロードできます。
- 申し込み先＝Eメール kensyu@j-hits.org

●研修概要

区分	コース名	期 間	定員	対 象	受講料	申込締切日
専門研修	子ども達のいじめのケア－加害と被害の連鎖－ 【Web開催】	2月2日(木)	35人	教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、こども家庭センター(児童相談所)職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員、児童福祉施設職員、司法関係職員	2,500円	12月8日(木)
	複雑性PTSD	2月16日(木)	35人	医療・保健・福祉・心理臨床の分野で対人支援業務従事者	2,500円	12月27日(火)

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、当センターでの開催を中止する場合があります。その際はホームページでご案内します。

【問い合わせ】

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2(阪神「春日野道」駅から徒歩約8分)
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org
<https://www.j-hits.org/>

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展 兵庫県立美術館開館20周年記念 李禹煥

国際的にも大きな注目を集めてきた「もの派」を代表する美術家、李禹煥。

東洋と西洋のさまざまな思想や文学を貪欲に吸収した李は、1960年代から現代美術に関心を深め、60年代後半に入って本格的に制作を開始しました。

本展では、「もの派」にいたる前の視覚の問題を問う初期作品から、彫刻の概念を変えた〈関係項〉シリーズ、そして、静謐なリズムを奏でる精神性の高い絵画など、代表作が一堂に会します。また、新たな境地を示す新作も出品される予定です。

■会 期＝12月13日(火)～2023年2月12日(日)

■観覧料＝一般1,600円(1,400)円、大学生1,200(1,000)円、高校生以下無料、70歳以上800円、障がいのある方(一般)400円、障がいのある方(大学生)300円

※()内は前売り。一般、大学生のみ。

前売り販売期間：12月12日(月)まで(会期中は販売しません)

※一般以外の料金には要証明

◎休 館 日＝月曜日、年末年始(12月31日(土)～1月2日(月・休))

※1月9日(月・祝)は開館、1月10日(火)は休館

◎開館時間＝10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで

※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください

◎問い合わせ

TEL 078-262-1011



①



②

①李禹煥、フランス、アルル、アリスカンにて、2021年

©Studio Lee Ufan / Photo by Claire Dorn

②《応答》2021年 アクリル絵具／カンヴァス 291×218cm 作家蔵

JICA関西

◆食えることから始める国際協力！

JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。月替わりエスニック料理もご好評いただいております！

1903年11月3日はパナマ共和国の独立記念日です。同記念日にちなんで、11月のエスニック料理はパナマ料理をご提供しています。また12月29日はモンゴル国の自由独立回復記念日のため、12月はモンゴル料理を提供させていただきます。



写真はパナマ料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

JICA関西食堂

<https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>



■営業時間＝(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー

コロナの状況を踏まえて営業時間変更になる可能性があります。

■定 休 日＝年中無休(年末年始を除く。)

(注)詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック！

→ <https://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

12月1日から「NHK海外たすけあい」キャンペーンが始まります！

日本赤十字社では、12月1日(木)から25日(日)まで「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施します。世界各地で紛争や自然災害、飢餓、病気などで命の危機に直面している人々を救うため、毎年NHKと共同で実施しているキャンペーンです。

第40回を迎える本年度は「誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。」をメインテーマとし、被害が甚大かつ国民の関心の高いウクライナ人道危機への赤十字の対応を報告し継続的な支援の必要性を伝えるとともに、同危機の影響を受けて深刻化するアフリカの食料危機等の人道危機に対して関心喚起を働きかけます。



衛生キットを配布する赤十字スタッフ(ウクライナ) ©IFRC Marko Kokik

詳しくは特設サイト(<https://www.jrc.or.jp/lp/kaigai/>)をご覧ください。皆さまの温かいご協力、よろしくお願いいたします！

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

●郵便局・ゆうちょ銀行・クレジットカードなどからご協力いただけます

口座記号番号：01110-0-1136

口座加入者名：日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料でクレジットカード：右のQRコードまたはホームページにアクセスしてください

(<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/contribution/howto/>)



↑こちらからアクセスしてください

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫

検索



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

HAT神戸で「ぼうさいこくたい2022」が開催されました

10月22日(土)、23日(日)に、HAT神戸エリアを会場として「第7回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい2022)」が開催されました。

「ぼうさいこくたい」は、内閣府等が主催する国内最大級の防災イベントで、国民全体の防災意識向上につなげるため、平成28(2016)年から開催しています。7回目を迎える今年、初めて近畿圏で実施することとなり、人と防災未来センターが開設20周年を迎えたことから当センターをメイン会場に、JICA関西、IHDセンタービル、なぎさ公園などHAT神戸エリア一帯が会場となりました。

当センターでは、東館1階「こころのシアター」でのオープニングセッション・クロージングセッションをはじめとする各種セッションのほか、西館1階ロビーなどでの各団体によるワークショップ、プレゼンテーション、ポスターセッション等さまざまな催しが繰り広げられました。なぎさ公園や道路での屋外展示も多数行われ、どの会場も多くの来場者でに

ぎわいました。

今回、阪神・淡路大震災の被災地である兵庫・神戸で開催されることから、大会を盛り上げるため、当センターが、日頃から防災活動を行っている団体に呼びかけ「ぼうさいこくたい2022現地企画・情報共有会議」を設置しました。この会議で生まれた現地企画による出展も行われ、防災関係機関・企業・団体と相互理解や連携を深めるきっかけとなりました。



「ALL HAT ひょうご防災フェスタ2022」を「ぼうさいこくたい2022」と同時開催しました

例年、地域交流や防災意識の向上を目的としてHAT神戸地域の防災訓練イベント「ALL HAT」を行ってきました。今年は10月22日(土)、23日(日)に内閣府等が主催する「ぼうさいこくたい」がHAT神戸エリアで行われることから、「ALL HAT ひょうご防災フェスタ2022」として同時開催す



ることとなりました。例年より規模を拡充し、兵庫県立舞子高等学校やNHK神戸放送局等新たな団体にも出展いただいたほか、なぎさ公園内にステージを設け、アーティストによる音楽ライブや神戸大学地域連携推進本部主催のセッション等を実施しました。

「ぼうさいこくたい」と同時開催であったことから来場者もたいへん多く、いずれの出展ブースもたくさんの方に参加いただきました。特に神戸市消防局が実施する西館屋上からの高所救出等のデモンストレーション訓練は、早くから見学待ちをする人が出るほどの人気で、子どもから大人まで救助活動に見入っていました。

両日とも天候にも恵まれたこともあり、HAT神戸全体が大盛況の2日間となりました。

「防災100年えほんプロジェクト・キックオフフォーラム」を開催しました

絵と言葉で大切なことを分かりやすく伝える「絵本」の力を借りて、世界中の子どもから大人までが「防災」の知恵を知り、命を守る行動を身に付けるための「防災100年えほんプロジェクト」が今年から始動することとなりました。

これを記念して、10月24日(月)に「防災100年えほんプ

ロジェクト・キックオフフォーラム」を開催し、齋藤元彦兵庫県知事、小西隆紀兵庫県議会議長、俳優の竹下景子さんからビデオメッセージも頂きました。

河田恵昭・人と防災未来センター長による基調講演「防災絵本100年計画への挑戦」では、100年先の未来まで届

けたい物語とはどのようなものか、多くの人に愛読されるための条件、SDGsの一環として世界の防災・減災に貢献するための仕組みなどについて語られました。

その後開催されたパネルディスカッション「災害語り継ぎと絵本」では、コーディネーターに市民防災研究所理事・特別研究員の池上三喜子氏を迎え、実際に防災絵本を発行している著者や編集者5組のパネリストから、どのような経緯で本を作成するに至ったのか、またどのような思いを込められたのかなどを語っていただきました。

11月5日(土)には、いよいよ絵本の原案となる「ものがたり」の募集がスタート。キックオフフォーラムをきっかけとして、多くの方にこのプロジェクトの意義を感じていただき、さまざ

まな立場や年齢の方に応募いただきたいと願っています。

「ものがたり募集」および「防災100年えほんプロジェクト」については、特設サイト(<https://bosai100nen-ehon.org/>)でご確認ください。



「HAT減災サマー・フェス」を開催しました

人と防災未来センターでは、防災意識の向上を図るため、また、地元HAT神戸の住民の方々との地域交流の場として、8月27日(土)に「HAT減災サマー・フェス」を開催しました。平成28(2016)年度から毎年行っているイベントで、一昨年度と昨年度はコロナ禍によりオンラインでの開催でしたが、本年度は3年ぶりに会場参加型での開催となりました。

15時から始まった「減災縁日」では、コベルコ神戸スティーラーズによる「ラグビーボールパスターゲット」やインターンシップの関西国際大学生によるペットボトルを使ったゲーム「Let'sカーニバル」のほか、地元住民・団体による「キャ

ンディー・レイ作り」や「ラジオパーソナリティ体験」等のさまざまなプログラムを実施しました。感染症対策を取りながらの運営となりましたが、来場者のご協力もあり、家族連れをはじめ多くの方に楽しんでいただきました。

18時からの「ひとぼうステージ」では、運営を手伝っていただいた神戸市立渚中学校防災ジュニアリーダーのメンバーやブース出展いただいた団体の方に当日の感想を述べてもらったほか、地元のダンススクールFIRST STEPによるダンスなどが行われました。

最後は「ひとぼうステージ」の進行も務めてもらったBloom Worksのライブにより、大盛況のうちに幕を閉じました。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人: 600円(450円) 大学生: 450円(350円)
東館のみ観覧の場合
大人: 300円(200円) 大学生: 200円(150円)
高校生・中学生・小学生: 無料
※()内は20名以上の団体料金
※障がい者、70歳以上の高齢者割引有
※毎月17日は、入館無料
(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

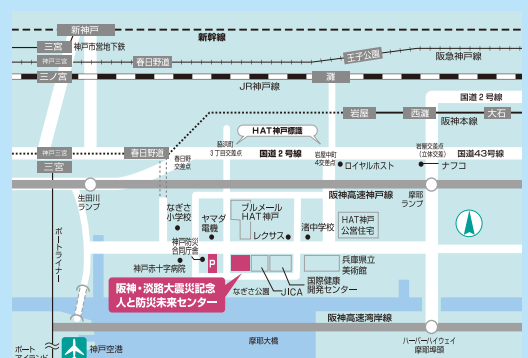
鉄道

・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
・JR「灘」駅南口から徒歩12分
・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

バス

・三宮駅から約15分
・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



国際防災・人道支援協議会(DRA)活動報告会 ～地球温暖化と災害危機を乗り越えるために～

9月16日(金)、「国際防災・人道支援協議会(DRA)活動報告会」をYouTubeでライブ配信しました。

冒頭、五百旗頭真・DRA会長があいさつし、「今回のテーマは、DRAに参画する19機関全てが関係している。そのような機関が集積している場所はなかなかないので、DRAとして、阪神・淡路大震災からの創造的復興に取り組んだ先人たちの思いを21世紀につなげていきたい」と述べました。

基調講演では、河田恵昭・人と防災未来センター長が「DRA活動のさらなる国際貢献～『防災絵本100年計画』の挑戦～」と題して、「これからは国際貢献に軸足を換え、絵本というコンテンツを利用し、防災を語り継ぐことを世界的文化として普及していくことが大事」と訴えました。

神戸地方気象台の佐伯亮介台長は、「気象庁は地域の防災機関との連携強化や平時から各市町村に寄り添い、顔の見える関係を構築していきたい」と述べました。

地球環境戦略研究機関(IGES)関西研究センターの小嶋公史副所長は、「急速な森林破壊や気候変動などにより

世界が脆弱化^{ぜいじやく}しており、地域課題の解決と脱炭素社会への移行により、しなやかで強靱^{きようじん}な社会の構築を」と訴えました。

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の永野康行研究科長は、「減災と復興を一体的に捉え安全で安心なまちづくりをしていかなければならない」と述べました。

最後に河田センター長が、「DRA活動も20年がたち、実際の災害現場で具体的にどうするのか、解を見いだすステージに入っていかなければならない。世界でも唯一ここだけの組織として、使命感を持ってやっていきたい」と総括しました。



見逃し配信視聴

DRI防災連続セミナー(第3回) ～南海トラフ地震の本音の話をしましょう!～

人と防災未来センター(DRI)と国際防災・人道支援協議会(DRA)の20周年記念連続セミナーの最終回となる第3回は、10月23日(日)に「ぼうさいこくたい2022」のセッションとして、対面とオンラインを併用して開催しました。

パネルディスカッションでは、福和伸夫・名古屋大学名誉教授、金田義行・香川大学特任教授、渡辺研司・名古屋工業大学大学院社会学専攻教授(当センター上級研究員)

をパネリストとして迎え、それぞれの専門的見地から報告いただきました。

パネリスト報告を踏まえ、ファシリテーターの河田恵昭・人と防災未来センター長が「戦争は外交努力により防ぐこともできるが、災害は防ぐことができない。確実に起こる災害に対する認識が甘い」と問題を提起し、活発な議論を行いました。総括で河田センター長は「これまでの研究の蓄積が今の防災力につながっており、さらに防災力を大きくするために当センターはこれからも国難に立ち向かう研究を続けていく」と決意を語りました。



第1回



第2回



第3回

見逃し配信視聴



Hem21 NEWS
vol.96

令和4年11月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください